国 文部科学省 → 熊本県 教育委員会 → 熊本県球磨 教育事務所 → 錦町 教育委員会

熊本県教育委員会では４月を「くまもと学校防災月間」と位置付けて、県下すべての学校で独自の取組を行っています。

本校でも道徳科副読本の活用や下校指導での災害発生予想箇所の確認等を行ってきました。本日は「地震による避難訓練」を実施しましたので概要をまとめます。

９：０５　学級ごとに避難訓練の諸注意
９：１０　緊急地震速報
　　20 秒ほど揺れが続く
９：１３　再び、地震で余震が発生する
　　20 秒ほど続く
　　児童は机の下など安全な場所で身を守る

９：１５　避難の放送に従い体育館へ移動
　　職員はトイレ等を確認しながら移動

９：２５　避難場所に全員集合
　　安全確認完了　3’05”

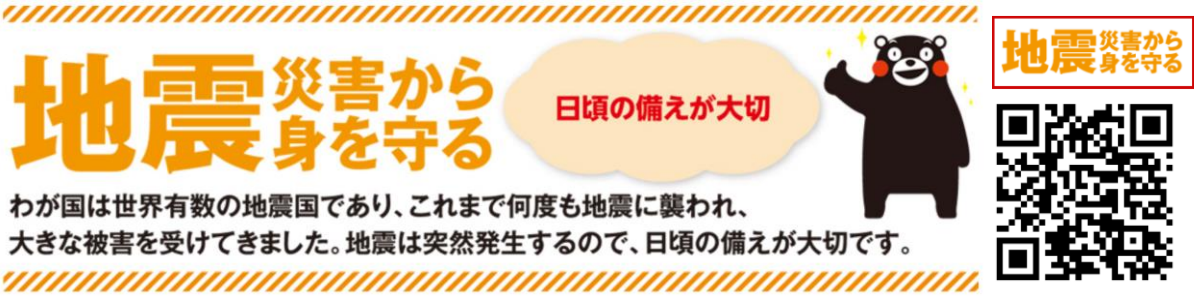
９：３０　校長講話

1　阪神淡路大震災で学んだ教訓
倒壊した家屋から逃げたした方法

【自助】自力、家族助け　68. 8%
【共助】近所、通行人等　30. 7%　} 99.5
【公助】消防、自衛隊等　1. 7%

2　避難の際の注意点（出口）
狭い出入り口から一斉に逃げる
ビー玉を避難者と見立てて模擬実験

熊本県危機管理防災課資料　↓　各種災害への対応策等が紹介されています。



1.まず自分の身を守る！	6.山崩れ、がけ崩れ、津波に注意!
2.すばやく火の始末を!	7.避難は徒歩で持ち物は最小限に!
3.戸を開けて、出口を確保!	8.自動車は「左」によせて停車!
4.あわてて外に飛び出さない!	9.百貨店・劇場などでは係員の指示に従う!
5.屋外では、危険なものから遠ざかる!	10.デマにまどわされない!

次ページ以降は、防災教育プログラムを紹介します。学校行事などでもご活用ください。
思考力を高める、外部人材を活用する、保護者・地域住民を巻き込む実践的な内容です。

防災教育の仕組み方（例示）

1　発想の転換

（1）年間授業時数に余剰時数がない

① 現在ある行事の中に、少しだけ取り込む。

② 避難訓練の内容を見直し、防災・減災を基盤とする。

（2）専門的な知識を有していないので実施できない。

① 地域素材を活用する。

役所関係課、社会福祉協議会、消防署、日赤などの機関
婦人会、老人会、区長会、消防団、青年団などの地域団体
青少年教育施設職員、防災士、防災介護士　など

防災士とは？

〝自助〟、〝共助〟、〝公助〟を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを、日本防災士機構が認証した人です。

防災介助士とは？

いつでも起こりうる災害について理解し、普段からどのように備えるか、災害時にどのように行動するのかを学び、実践に結びつけるのが防災介助士です。

2　本日の避難訓練

校長の話から

お（さない）、は（走らない）、し（ゃべらない）、も（どらない）、よよく聞く

↓

なぜ、「お」「か」「し」「も」が大切なのか説明

■ ビー玉を使って、視覚的に実演

→ ゆっくり一つずつ順に動かすとスムーズにビー玉が移動する。

→ 急激に移動させようとすると、後半部分のビー玉は詰まってしまう。
これを人間に例えたら・・・・・・・・・。（児童思考場面）

「しゃべらない」、「もどらない」ことも同様に、過去の事例を参考に
その行動を守ることの重要性、必要性を感じる時間があった。

□ 発達段階に応じた事後指導が大切

本校の児童（発達段階）に必要な力は、一人の時でも目の前の危険から逃れることのできる「自助力」です。

3　防災風呂クラム(例)

例1　段ボールを使った居住空間づくり

(1)いつ

① 学年キャンプ(宿泊を伴う)

② 総合的な学習の時間「防災」 など

(2)どこで

体育館や校舎(教室)

(3)ポイント

① 段ボールを事前に集めておく。

② 「段ボールハウスづくりをします。」だけの指示だと、基地づくりで終わってしまい、目標達成ができない。

③ なぜするのかを明確にし、目的意識を持たせて行う。

④ 「不便さ体験」をした後に、居住地空間づくりを行うと、必要性がわかる。

≪ ポイント ≫

活動前に、実際の避難所の様子を伝える。

⇒ 避難所の画像を提示し、感想交流する。

⇒ 居住スペースの狭さ体感（例２０人分）

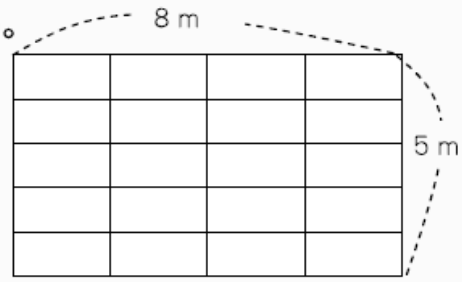
① 区画（１ｍ×２ｍ）を作る。

② 一区画に一人割り当てする。

③ 荷物を持ったまま区画に入る。

④ 寝る、座るなどして５分間滞在する。

⑤ 感想を交流する。



例2 「水洗トイレ」断水＆バケツリレー

(1)いつ

① 通常の学校生活(小・中学校)

② 学年キャンプ

(2)どこで

屋外トイレ

(3)ポイント

① 水洗トイレのバルブを閉める。

② 事前に水をトイレ前ドラム缶等に溜める。

→ 水源からトイレまで並び、バケツリレーをしながら水を溜める。

③ 実施学年(学級)を決め、断水時のトイレ体験をする。

④ 衛生面への配慮は、職員が適宜行う。

■ 水溜め等を授業前や放課後又は昼休み等で行うことで、授業時数への影響はない。

■ 屋外トイレに限定することで、「プチ体験」(1日1回など)で実施できる。

■ 「ただ今断水中」という張り紙を設営する。

■ 「水」のありがたさが体感できる。

※ 「バケツリレー」は、運動会種目として実施可能。(児童、保護者等)

例3 「土のう」づくり

(1)いつ
　① 運動会直前(小・中学校)　テント支柱に結びつける学校対象
(2)どこで
　運動場
(3)ポイント
　① 委員会活動(体育)や運動会準備の際に実施する。
　② 運ぶときは交互に並んでリレーをした方が楽で速い。

　※ 止水体験も実施可能。

【土のうマシン】(実際の災害時に活躍)

① 底抜きのバケツに土のう袋をセットし、土を入れる。
② 土がたまったらバケツを抜く。
③ 土のうの紐を締めて完成。

浸水個所に土のう積み開始

互い違いで土のう運搬

増水に対応させて土のう強化

例4 「防災教室」

(1)いつ
　① 避難訓練実施日:行事1時間(小・中学校)
(2)どこで
　運動場等
(3)ポイント
　① 消防署(関係機関)等に事前相談を行い、実施できるか確認をとる。
　　→ 内容と時間(下表では3時間張り付きとなる。)
　② 基本的に複数のプログラムを準備し、ローテーションで体験する。
　　(消火体験を軸に、他のプログラムを2～3つ設定する。)

時間配分	消火体験	ロープワーク	人運び(運搬術)
活動①15分	A班	B班	C班
活動②15分	C班	A班	B班
活動③15分	B班	C班	A班

　③ 2時間目を低学年、3時間目を中学年、4時間目を高学年とする。

■ 既存行事と抱き合わせて内容を計画し、災害時に必要な技能の習得となる。
■ 準備物等は、消防署職員で行えるため、職員への負担が減る。
■ 専門的な知識を有する方々からの学びの場となる。
※ 内容・時間配分等については、それぞれの学校のねらいに応じ決定する。

例5 「非常食」を学校の昼食で食べる

(1)いつ
　給食のない授業日(小・中学校)
(2)どこで
　各教室

≪ ポイント1 ≫
参加者には 1食分の「非常食」を持参する という案内のみにする。
⇒ 具体的にどんなものを持ってくるかは、参加者に考えさせる。
⇒ 「持参したものが食べられない」などの経験は、それが災害時の現実であり、生きた学習となる。
（例：湯を要するカップ麺、冷蔵保存のできない生もの等）

≪ ポイント2 ≫
非常食等を紹介する際は、それを選んだ理由を必ず述べる。
⇒ 「なぜ」それを準備したのか、理由を交流することで学びが深まる。

※ 事前・事後で家族が関わり啓発の機会になる。 ※弁当づくりなし(負担減)
※ 備蓄用食材の期限が切れそうになる時期はチャンス！

例6 「ハイゼックス炊飯」(日本赤十字社が災害時等に使用しているもの)

(1)いつ
　① 昼食時
　② 学年キャンプ(小学校)
(2)どこで
　運動場等

(3)ポイント
　① 婦人会や区長会等に事前相談を行い、実施できるか確認をとる。
　　→ 各学校でも学年・学級単位なら実施できる。
　② 持参物として、一人米一合、レトルトカレーなど
　③ ハイゼックス袋は、市町村の社会福祉協議会を通じて入手可能(地域の店も可能)
　④ かまど作成は、学校の実態に応じて対応する。

【ハイゼックス炊飯】(耐熱性ビニル)のよさ・魅力
■ 飲用不可の水を鍋にいれても、ビニルの中が綺麗な水であれば、通常どおりの米飯食になる。(皿を使うことなく、汚れない。)
■ 給食のない日等に実施すると保護者の負担が減る。
■ 事前に、地域の自主防災組織がすでに計画して居る場合は、一緒に参加させていただき、地域ぐるみで防災発生時の対応訓練ができる。

例7「煙で視界が悪いときの避難方法」

(1)いつ

① 避難訓練時

(2)どこで

体育館倉庫や校舎内空き教室

(3)ポイント

① 消防署との連携事業で、体に無害の「発煙器」で室内の視界を悪くする。

② 煙が長持ちしないので、小規模校や単学級（毎年5年生など）での実施が望ましい。（4～6人のグループで行うとよい。）

③ 方法としては、次のとおり

1回目　まずやってみる。

↓

感想交流　どうすれば視界が悪いときに避難しやすいか話し合う。

- □ 何も見えなくて怖い
- □ 姿勢は低くしたほうがいい。
- □ 声を掛け合ってみたらどうか。

↓

2回目　感想交流で決定した、避難方法でやってみる。

↓

振り返り　2回目の感想を出し合う。

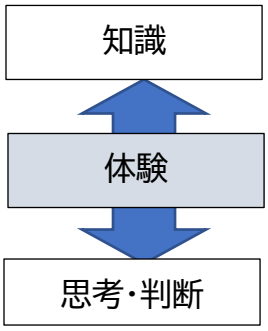
- □ 全員が声を出し合って安心できた。
- □ 前が見えなくても前の人につかまっていたのでできた。
- □ 実際の煙の時は、目も開けられないから手探りが必要。
- □ タオルやハンカチは必要だよね。

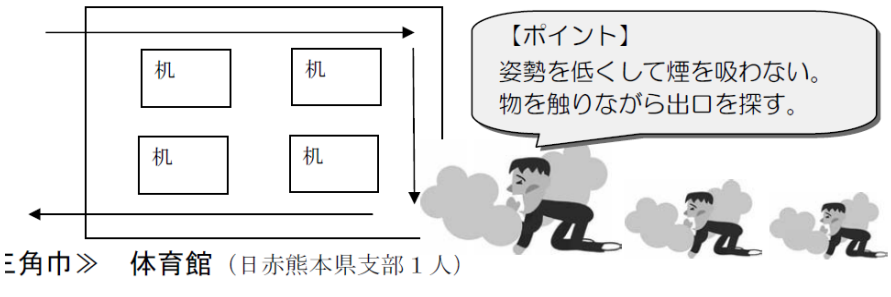
※ 1回だけの体験では、ただの「体験」で終わってしまう。

※ 真の自助力を付けるならば、1回目の体験で感じた課題をどのように解決すればいいか、考える必要かある。

※ 指導者から正しい避難行動を聞いただけでは「知識」だけになる。

※ 今後、大切なのは「思考・判断」する場面を計画すること。





例８　地区懇談会での防災学習「災害時に必要なもの」

(1)いつ
　夏休み
(2)どこで
　各地区の公民館
(3)ポイント
　① 事前に文書にて「各家庭でリュック1個程度持参」依頼をしておく。
　② 協議が終わった後に、各家庭からもって来たものを紹介し合う。
　③ 保護者や地域住民(区長、民生委員等)を交えた防災学習ができ、備えることの大切さを学校から発信できる。

■ 短時間で、準備することの大切さが理解できる。
■ 知らない災害グッズを知る機会となる。

あなたの家が災害（火事・がけ崩れ・洪水等）に巻き込まれそうになっています。急いで第一次避難所へ避難する必要があります。
あなたは何を持っていきますか。
（歩いて避難する場面を想定。家に帰るめどは今のところまだありません。）

例9　家庭教育講演会での防災講話

(1)いつ
　夏休み(小学生)
(2)どこで
　学校の体育館等
(3)ポイント
　① 講師として考えられる方々
　　ア　地元行政(防災関係課)「地域の過去災害」
　　→ 写真や資料が残されている。
　　→ ある程度「既存のプレゼンを持っている」可能性が高い。
　　→ 「災害は繰り返す」昔のことを忘れない機会になる。
　　イ　国土交通省「出前講座」内容は要相談
　　→ 出前講座なので、講義や体験を交えた内容で依頼できる。
　　ウ　防災士等
　　→ 専門的知識を有する講師から話が聞ける。

例10　土曜授業での防災学習

(1)いつ

土曜日　午前半日(小学生)

(2)どこで

学校

(3)内容

避難訓練(教室)

シェイクアウト避難訓練(地震想定)

※　障害物の意図的設置

階段に落下物、くつ箱転倒、避難通路に障害物設置

※　児童が自ら考え、避難場所まで移動する。

※　評価者がそれぞれの場所で児童の動きを評価

↓

避難訓練(運動場)

↓

講話

地域の「防災士」からの講話

自分の避難所の理解度調査、家族での約束事(避難場所)

↓

備蓄食配付

グループの人数分には足らない又は多い数の非常食

高学年を中心にどのように分けるか

↓

引き渡し

地区ごとに並び替え、保護者への引き渡し訓練

車の通行のルール共通理解と実践

【ポイント】

■　「避難訓練」が一工夫されている。

→　保護者や地域住民の参加型である

→　児童の思考・判断力がとっさに試される内容である

□　多くの関係者と協働するため、事前の打ち合わせに時間を要する

4　その他

(1)地震体験「起震車」(最大震度7)　熊本市消防署に1台あり

→　人件費・高速代等の費用がかかる。(参考:八代までで30,000円)

(2)アルファー米(お湯や水をいれるだけでご飯になる)の賞味期限切れは、いただける可能性有り。(町行政や消防署)

(3)平成29年3月に全世帯に配布された「防災ハンドブック」を活用し、学校と保護者間で防災意識の共有を図る。